



日本医療マネジメント学会

第99号

2025年6月1日発行

発行 特定非営利活動法人
日本医療マネジメント学会事務局〒860-0806 熊本市中央区花畑町1-1
大樹生命熊本ビル3階

TEL 096-359-9099 FAX 096-359-1606

E-mail office@jhm.or.jp

URL http://jhm.umin.jp/

News Letter

第27回 日本医療マネジメント学会学術総会開催のお知らせ(第5報)

少子・高齢化時代の医療マネジメント ～医療・介護に求められる変革～



第27回 日本医療マネジメント学会学術総会
会長 上之原 広司

(国立病院機構仙台医療センター
名誉院長/社会医療法人康陽会
中嶋病院顧問)

第27回日本医療マネジメント
学会学術総会を本年7月18日
(金)・19日(土)の2日間にわた

り、仙台国際センター展示棟および江陽グランドホテルに於いて開催させていただくことになりました。皆様のご期待に応え、充実した学術総会となるように鋭意準備を進めております。

昨年、1月1日の能登半島地震、9月の奥能登豪雨に災害医療が展開されました。阪神淡路、東日本、熊本と大震災を経験し災害医療システムも進化してきましたが震災への対応は被害の多様性、地域性など複雑であり個々の病院に即した継続的整備が必要です。発災後は地域の病院において被災者の診療とともに平時の医療の維持が大きな問題となります。新型コロナウイルス感染症の診療に関しても通常診療に移行し小規模な流行を繰り返しながら平時の診療と両立させる柔軟な医療体制に移行しています。パンデミックや大災害の状況下においても回復可能なレジリエントな社会を目指すべきとされています。各地の震災からの復興についても情報交換したいと考えております。

学術総会のテーマは「少子・高齢化時代の医療マネジメント～医療・介護に求められる変革～」としました。日本の人口構成の将来推計によると人口減少社会、生産年齢層の減少、そして後期高齢者の急増が予測されています。一方、医療従事者は慢性的に不足しており、さらに、働き方改革により時間外勤務は制限されます。特に、後期高齢者の増加において顕著なのは85歳以上の超高齢者の急増です。要支援・要介護の状況にある方も多く、地域格差も多いことより、地域の実情に合わせた、かかりつけ医機能を有する病院を中心とした地域完結型の医療・介護提供体制の構築が必要とされています。自宅および施設と病院をつなぐ高齢者救急は

年々増加しており、前述の後期高齢者、85歳以上の割合が増加すると予想されています。在宅診療・訪問看護、高齢者介護施設と二次救急病院との医療体制を成立させるには高齢者搬送の効率化、適正化が急務です。

メインシンポジウムは本学術総会のテーマに沿って「人口減少社会の医療・介護に求められる変革」をタイトルといたしました。医療介護政策、地域医療のデザイン、地域医療連携推進法人事業、地域医療構想の進展、具体的事例を踏まえて5名の演者にご講演、ご討議いただきます。特別企画として生成AIによる講演を企画しました。「医療Dxとアクセシビリティ」と題してご自身の体験をご講演いただきます。

本学術総会はクリティカルパス、医療安全、医療連携を三つの柱としています。これらに関する教育セミナーを2セッション、シンポジウムを多数設けております。教育講演は幅広いテーマで5題を設けました。シンポジウムにおいては高齢者救急、働き方改革、医療DXの推進など喫緊の課題、災害医療、新興感染症についても取り上げています。その他、多くの一般演題をご発表いただく予定です。ご参加の皆さまに役立つものと思います。

招待講演、特別講演には学術総会参加の皆さまにご聴講いただけるよう幅広い領域からそれぞれの分野でご高名な先生方にご講演をお願いいたしました。招待講演としては東北大学第23代総長の富永悌二氏に「日本の新たな国立大学像をめざして」について、千日回峰行を達成された福聚山慈眼寺住職 塩沼亮潤氏に「人生生涯 小僧のころ」、国立科学博物館館長の篠田謙一氏には「科学を文化に、日本人のルーツ」の題でご講演をいただきます。また、特別講演としては東北大学災害科学国際研究所所長の栗山進一氏に「巨大災害における保健、医療、福祉の役割」、厚生労働事務次官 伊原和人氏には「医療政策の動向」、さらに社会福祉法人日本医療伝導会衣笠病院グループ理事 武藤正樹氏には「今後の高齢者医療の動向～ポスト2025年のロードマップ～」のご講演をいただきます。